

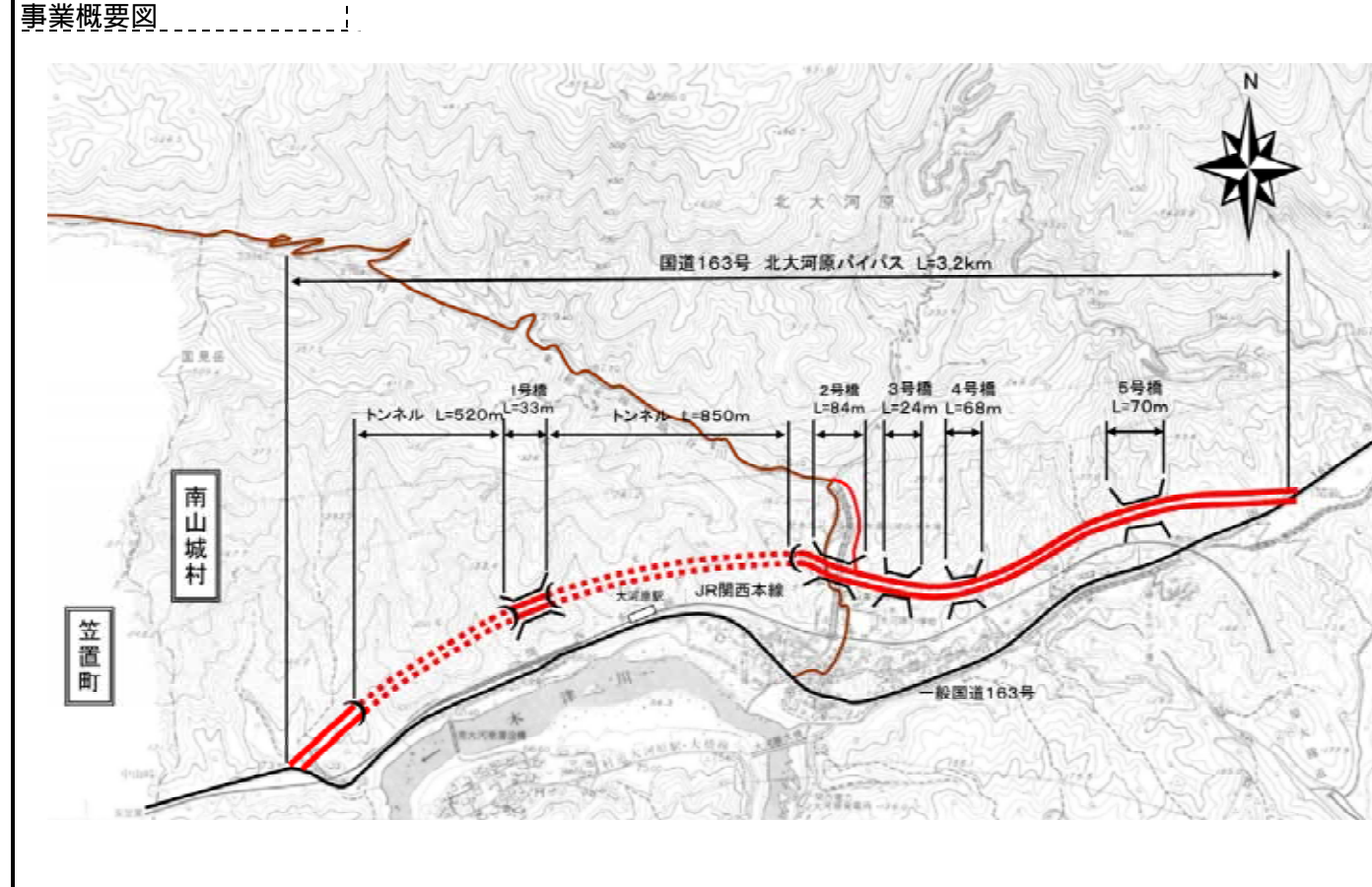
新規事業採択時評価結果（平成18年度事業化箇所）

担当課： 国道・防災課

担当課長名： 鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道163号北大河原バイパス	事業区分	道路改築事業	事業主体	京都府
起終点	起点：相楽郡南山城村北大河原 終点：相楽郡南山城村北大河原	延長	3.2 km		
事業概要	国道163号は、大阪府大阪市より京都府木津町を經由し三重県津市を結ぶ重要な路線であることから、関西圏と中部圏との交流・連携並びに社会経済活動を担っており、大型車混入率が35%と多い状況である。このうち京都府相楽郡南山城村北大河原地区においては、JR関西本線を2か所でアンダーパスしているが、一方は桁下高さがH=4.1mと建築限界を確保できておらず、地域の生活道路となっているものの、幅員が狭く目視通しが悪いため交通事故が多発しており、歩行者、自動車の安全確保が急務となっている。				
事業の目的、必要性	北大河原バイパスは、JRとの鉄道交差（桁下高さH=4.1m）や、幅員狭小（W=5.9m）・線形不良箇所（最小R=50m）を解消し、安全で円滑な国道ネットワークの確保と緊急輸送道路（1次）の信頼性向上を図る。また、現道と通過交通の機能分担が図られ、歩行者の安全はもとより、騒音・振動の解消等、地域住民の生活環境改善にも貢献する。				
全体事業費	80億円	計画交通量	8,600台/日		



関係する地方公共団体等の意見  
 南山城村長、相楽郡町村会、国道163号整備促進協議会が、抜本的な改良を毎年要望

事業採択の前提条件  
 費用対便益：便益が費用を上回っている。（B/C = 1.6）  
 円滑な事業執行の環境が整っている：東側約半分の区間については村道代行事業として着手しており、地元の理解を得て一部用地取得が完了している。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.6	総費用 63億円 （事業費：61億円 維持管理費：2億円）	総便益 198億円 （走行時間短縮便益：90億円 走行費用減少便益：7億円 交通事故減少便益：1億円）	基準年 平成17年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)		
	事業費変動	B/C= (事業費 %)	B/C= (事業費 %)			
		事業期間変動	B/C= (事業期間 %)	B/C= (事業期間 %)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。		
		事故対策		バイパス整備により、現道との機能分担を図る事業である。 【特徴】京都府管理補助国道全センサス区間81区間中大型車混入率第4位、ピーク時旅行速度4位、H13～H15事故件数9位 大型車が多いため毎年死亡事故が発生しており、H15～H16には当該区間現道部で2件の死亡事故が発生		
		歩行空間		現道の一部は歩道が一部未整備で路肩も狭小であるが、バイパスの整備により現道との機能分担が図られ、歩行者の安全性が向上する。		
	社会全体への影響	住民生活		大型車混入率が35%と高いが、バイパスの整備により通過交通が現道から排除できることから、騒音・振動等の生活環境の改善が期待できる。		
		地域経済		幅員狭小区間や線形不良区間及び鉄道交差箇所の解消により、産業ルートとして物流の利便が向上する。		
		災害		昭和28年災害時には国道全体が複数箇所崩落。第一次緊急輸送道路にも位置づけられている。バイパス整備により信頼性の向上を図る。		
	環境		CO2排出削減量：2,010t/年			
	地域社会		大型車のすれ違い困難箇所の解消			
事業実施環境			京都府管理の国道163号においては、道路改築事業や交通安全対策事業により、継続的・集中的に安全対策の強化に努めている。			

採択の理由

費用対便益が1.6と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件を確認できる。  
 幅員狭小・線形不良等、未整備区間の解消を目的とし、国道ネットワークの安全性、緊急輸送道路（1次）の信頼性、沿道住民の安全性・利便性向上が図られる事業である。  
 以上により、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。